

第59回情報・システム研究機構国立極地研究所運営会議議事要録

日 時 令和3年6月11日（金）10：00～12：39

場 所 国立極地研究所（Zoomによるオンライン開催）

出席者 古谷委員（議長）、阿部委員、池原委員、井関委員、小山内委員、塩川委員、
長谷川委員、福井委員、森本委員、山本委員、野木委員、榎本委員、伊村委員、
本山委員、宮岡委員、東委員、外田委員、門倉委員

陪席者 中村所長、笹川立川共通事務部長、濱田総務課長 兼 統数研事務課長、
尾崎財務課長、丹生研究推進課長 兼 極地研事務課長、盛田副センター長、
宮本マネージャー、樋口マネージャー、豊田副課長、磯野主任、岩城係員

（開会）

丹生極地研事務課長から、出席者は委員19名の内18名であり、会議の成立要件である定足数（委員の過半数の出席）を充たしていることが報告された。

議長から開会が宣言され、新たに就任した井関委員の紹介があった。

（所長挨拶）

議事に先立ち、所長から挨拶があったのち、審議事項について説明があった。

（前回議事要録（案）の確認）

前回議事要録（案）が原案の通り了承され、この議事要録から公開することが説明された。

（審議事項）

1. 南極地域観測事業について

小山内南極観測審議委員会委員長から、今回の審議事項については令和3年5月21日（金）開催の南極観測審議委員会で承認されており、令和3年6月30日（水）開催予定の南極観測地域観測統合推進本部総会に諮る原案として審議する旨説明があった。

次いで、野木副所長から資料1-1～1-11に基づき、以下の事項について説明があり、審議の結果、南極地域観測統合推進本部総会に諮ることが了承された。

- ・ 第6 1次南極地域観測隊 越冬隊活動報告
- ・ 第6 2次南極地域観測隊 夏隊活動報告
- ・ 第6 2次南極地域観測隊越冬隊の現況（1～4月）
- ・ リュツォ・ホルム湾の海水状況について
- ・ 第6 3次南極地域観測計画の概要（案）
- ・ 第6 3次南極地域観測計画（案）
- ・ 第6 3次観測隊 設営部門計画（案）
- ・ 第6 3次南極地域観測隊の編成（案）
- ・ 第6 4次南極地域観測計画の概要（素案）
- ・ 南極地域観測第X期6か年計画 1次案
- ・ 南極地域観測第X期6か年計画 概要

2. 第4期中期計画期間における研究教育系の改組、および研究施設、室の設置について
 前回運営会議において方向性が承認されたことを受け、中村所長から資料2-1～2-3に基づき、第4期中期計画期間における研究教育系の改組、研究施設・室の設置、情報システム研究機構組織運営規則の一部改正、情報・システム研究機構研究教育職員の任期に関する規程の一部改正について説明があり、審議の結果、了承された。

（報告事項）

1. 次期国立極地研究所長の決定について
 笹川立川共通事務部長から、資料3-1、3-2に基づき報告があった。
2. 特任教員及び特任研究員の人事について
 野木副所長から、資料4に基づき報告があった。
3. 客員教員の人事について
 野木副所長から、資料5に基づき報告があった。
4. 第3期中期目標期間（4年目終了時評価）に係る評価結果（文科省・学位授与機構原案）について
 伊村副所長から、資料6-1、6-2に基づき報告があった。
5. 第4期中期目標・中期計画の策定について
 伊村副所長から、資料7に基づき報告があった。
6. 令和4年度の概算要求について
 笹川立川共通事務部長から、資料8に基づき報告があった。
7. 情報・システム研究機構本部事務局立川共通事務部の改組について
 濱田総務課長から、資料9-1、9-2に基づき報告があった。

8. 南極観測をとりまく状況について

野木副所長から、資料10に基づき報告があった。

9. 北極研究をとりまく状況について

榎本副所長から、資料11に基づき報告があった。

10. 国際・研究企画室の活動状況について

伊村副所長から、資料12に基づき報告があった。

11. 総合研究大学院大学複合科学研究科極域科学専攻の現況について

門倉委員から、資料13に基づき報告があった。

12. 極域科学振興募金のクレジットカード決済開始について

丹生研究推進課長から、資料14に基づき報告があった。

(意見交換)

国立極地研究所に対する要望・助言、本日の審議事項・報告事項等について幅広く意見交換を行った。

- ・ コロナ禍での南極観測事業実施は多方面で調整や対応が大変だろうが、現状、良く実施されており引き続きよろしくお願ひしたい。
- ・ 第X期南極地域観測計画に引き続き協力するため、海鷹丸の運用調整等をお願ひしたい。
→今後も学生に南極観測を体験いただきたく、できる限り対応していきたい。
- ・ 昭和基地のデータは長いもので60年近くあり非常に貴重。国内外での共同利用をさらに進めていくとよいのではないか。
→協調と競争を考慮しつつ、適切な共同利用やユーザー開拓を考えていきたい。
- ・ 北極域観測船建造に関して、極地研としてどのように関わっていくのか情報共有をいただきたい。
→観測機器の検討等、国内の研究者の要望を集める機能を果たしている。
- ・ 第4期中期目標・中期計画では、極地研が扱っている研究領域全般にわたるよう記載されるとよい。
- ・ 研究教育職員の評価を所長が行い、組織がフラットであることに感銘を受けた。他方、事業等の必要に応じてプロジェクトチームを組む体制もよいのではないか。
→プロジェクトの体制作り等、他機関の最近の状況を参考にさせていただきたい。
- ・ 若手研究者の育成が重要であり、その一つとして国際南極大学カリキュラムの活用も考えられる。また、ArCSIIは非常に活発と評価している。共同利用・共同研究拠

点に関しても引き続き協力できるとよい。

- ・ 研究教育職員について、人材育成、活力維持、流動性等を考慮した人事の工夫があるとよい。

→ご意見は全く賛成。まずは確実に人材確保を行っていきたい。

- ・ 現状、会議はオンラインが中心だが時期を見て対面での実施があるとよい。

以上